

クラス	QA304	担当教員	鷲見 聡 (スミ サトシ)
テーマ	障害児・発達障害児の理解と支援		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】『発達障害の謎を解く』単著、日本評論社、2015年。</p> <p>【論文】①「発達障害の主軸となる障害の理解」『小児リハビリテーション』1巻、2018年。 ②「ニューロダイバーシティ（脳神経多様性）—自閉症と精神医学の革命的概念」『精神科治療学』33号、2018年。③「インターネット依存」『こころの科学』200巻、2018年。その他、数十編の学術論文を執筆。</p> <p>【研究課題】障害児・発達障害児の病態と支援。</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：知的障害、肢体不自由、発達障害、多様性、障害者差別問題、生命倫理			
<p>【目的】最近の科学技術や医療技術の進歩によって、障害や発達障害に関する医療・療育・教育は大きく変化してきました。また、科学の進歩により、多くの偏見・差別的考え方が誤りであったことも明らかにされました。このゼミでは、新しい知識を自分たちで得る方法を学び、卒業後も新たな知識を吸収し続け、時代の変化に取り残されない専門家なることを目指します。また、人間には多様性があることを大前提としながら、障害児・発達障害児を理解し、支援することも目指します。</p> <p>【内容】</p> <p>① 知的障害：染色体異常症（ダウン症候群など）、先天異常、脳神経疾患など知的障害の原因となる疾患を学びます。各疾患の病態、支援方法、最新の知見、特定のケースなどについて学習します。</p> <p>② 肢体不自由：脳性麻痺、筋ジストロフィー、骨疾患、二分脊椎などの肢体不自由について、学習します。</p> <p>③ 発達障害：ここ10年でその概念が大きく変化した分野であるため、最新の知識が必要です。したがって、新しい知識の学習に特に力を入れます。</p> <p>④ 多様性の理解：残念ながら我が国では、障害等に対する偏見が根強くあります。生命科学に関する正しい知識を学び、人間の多様性を理解します。また、色覚多様性（色弱）やLGBTなどについて、偏見や差別を解消することを考えます。</p> <p>【授業計画】3年の前半は、上記①～④から関心のあるテーマを選んで、自分で調べ（グループあるいは個人で）、要点をまとめ、発表を行います。必要に応じて、担当教員が、ミニ・レクチャーを行います。3年の後半は、卒業研究のテーマを意識しながら、ミニ・レポートも作成します。そして、4年では、卒業研究に取り組み、「子ども発達学専門演習Ⅱ論文」（＝卒業論文）を仕上げます。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>担当教員は、小児科医として障害児の医学的支援に、30年近くにわたり携わってきました。そこでは、染色体異常症などの知的障害、脳性麻痺などの肢体不自由、自閉症スペクトラムなどの発達障害をもつ、数多くの子どもたちを支援してきました。その間、障害の考え方や支援方法に関して、実に様々ことが大きく変わりました。これから先も、絶えず大きな変化が生じ続けると予想されます。したがって、卒業後も、新しい知識や考え方を学び続けなければなりません、その度に大学で講義を受けなおすことは困難です。自分自身で新たな知識を身につけ、考えることが重要となります。そのための自発的な力を、ゼミの活動を通じて身に付け、新たな時代の良き支援者になることを期待しています。</p>			